

坊領の日幟さん

坊領では、2月28日に伝統行事である「日幟（ひのぼり）さん」が行われました。

日幟さんとは、疫病を祓う力があるとされ、白布に、坊領地内に祀られているお社の名前を書き、幟に仕立てて村境の道などに奉納するもので、村に疫病の侵入を防ぐ意味を持つ民俗行事です。

また「日幟」さんの呼び名は、かつては麻や綿から糸を紡ぎ、白布を一日がかりで作ったことに由来するという説があり、今でも女性が中心になって行事を行っています。



▲「金比羅宮」や「下山大明神」などと書かれた幟を立て、手を合わせて奉納します。

この日も村の女性たちは、佐間神社で幟とともにお祓いを受け、その後担いで村内15箇所へ奉納し、村の厄除けを祈願しました。

劇団すだち公演「開け心が窓ならば」



▲脚本もさることながら、劇団員ひとりひとりの熱演に、観客はグイグイと舞台に引き込まれていきました。

2月20日（土）中山の生活想像館で、今年度最後となる第7回大山町みんなの人権セミナーとして、劇団すだちによる人権劇「開け心が窓ならば」が公演されました。劇団すだちは、中山中学校PTAのOB・OGが中心となり、PTAとして係わっていたときで来たPTA仲間の輪を、PTAから抜けた後も持ち続けたいとの思いから結成された劇団です。

今回の公演「開け心が窓ならば」は、部落差別から逃げようとしていた大学生が、幼馴染や同級生たちと係わるなかで、次第に心を開き、部落差別に立ち向かうことを心に誓うまでを描いたものでした。

真剣な演技のひとつひとつは、見る人の心を確実に開いていったことでしょう。

公共交通について検討

大山町の公共交通の問題を考える地域公共交通会議が3月1日、名和公民館で行われました。この会議は、国の行政機関、日本交通、日興タクシーなど関係事業者、住民代表として各地区区長会長さんが委員となつて、大山町の輸送サービスについて協議するために設置された会議です。

この度は、現在大山町社会福祉協議会が事業主体として、体の不自由な方などを対象に行っている外出支援サービス事業について、4月より市町村運営有償運送（市町村福祉輸送）事業に変更し、町が事業主体として輸送に取り組むことについて協議し、承認を頂きました。



▲承認事項は、事業実施に向け事務手続きを進めます。

このほか、大山町の今後の「公共交通のあり方」について、その検討の進め方について協議を行い、ニーズ調査の実施など方向性を確認しました。